第５学年　道徳学習指導案

に組　男子 18 名　女子 18 名　計 38 名

指　導　者　　益　満　　陽　平

１　主　題　名　　気持ちのいい学校にするために

４－(6)　先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。

２　主題について

(1)　主題の位置とねらい

この期の子どもたちは，これまでに先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って，楽しい学級をつくることの大切さを理解し，その意識をさらに学校へと広げ，よりよい学校にしていこうと努力してきている。しかし，怠惰な感情や労苦からの逃避などの考えから，自分たちの学校生活にかかわる人々への敬愛の念をもてなかったり，よりよい学校にしていくためにみんなと積極的に協力していこうとすることができなかったりすることがある。このようなことから，この期の子どもたちに，学校における自分の役割を自覚してみんなと協力し合いながら行動し，先生や学校の人々への敬愛を深めてよりよい校風をつくっていこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では，学校の一員としての自分の役割を果たすことができず，よりよい学校にするために積極的に行動することができない場面で生じる心情や心情の変化を，自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して,よりよい学校にするために,先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなと協力しながら積極的に自分の責任を果たしていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには，よりよい学校にするために，先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなと協力しながら積極的に自分の役割を果たしていこうとする生き方は，お互いの信頼関係を深め，これまでの校風をさらによりよくしていくことに繋がるというよさを実感し，これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

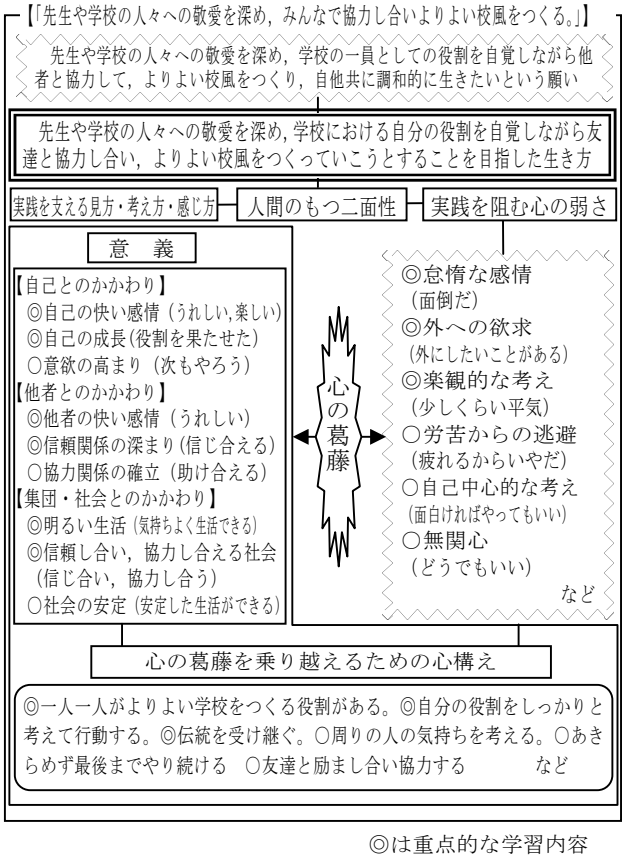
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は，先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくる生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

(2)　指導の基本的な立場

先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることついて，人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくるためには，一人一人が学校を構成する一員であり，役割をもっていることを自覚すること，友達と協力しながらその役割に対して積極的にかかわることが大切である。それにより，よりよい学校にするために役立てた自分自身への喜びや成長を感じながら，先生や学校の人々，さらにはこれまで校風を作ってきた人々への敬愛を深めることにつながると考える。さらにそのことが，よりよい学校生活，よりよい校風をつくっていくことへと発展していくと考えることができる。

ここでは，先生や学校の人々への敬愛を深め，学校の一員としての役割を自覚しながら他者と協力して，よりよい校風をつくり，自他共に調和的



◎は重点的な学習内容

に生きたいという願いの基に，先生や学校の人々への敬愛を深め，学校における自分の役割を自覚しながら友達と協力し合い,よりよい校風をつくっていこうとすることを目指した生き方とし，その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から，人間理解を深めていくことになる。

具体的には，よりよい学校にするために自分の役割を自覚し，積極的にみんなと協力することが，自他共に快い感情になり，信頼関係が深まり互いに明るい気持ちで生活できるようになることなどを理解させる。一方で，よりよい学校にするために自分の役割を自覚し，積極的にみんなと協力していきたいと思いながらも怠惰な感情，外への欲求，楽観的な考えなどの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして，それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには，一人一人がよりよい学校をつくる役割がある，自分の役割をしっかりと考えて，行動する，伝統を受け継ぐ，周りの人の気持ちを考えるなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために，本主題では読み物資料「代表委員会が学校をつくる」(日本文教出版)を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

軽い気持ちで主人公の大樹は代表委員会の仕事を引き受ける。しかし，休み時間や早朝に活動をすることが多い代表員会に嫌気がさし,話し合いの場においても消極的な態度をとってしまう。そんな中，担当の先生から，代表委員会の意義や役割の重大さを説明される。その後，大輝は「あいさつ運動」を自ら提案して活動するなど，学校のためを考えた行動を積極的に行う姿が見られるようになったという内容である。

この資料を扱うに際し，話の内容の理解を深め，大輝の心情に十分に触れさせるために，録音ＣＤや一枚絵を活用する。また，子どもたちの体験場面を振り返らせ，そこでの心情と大輝の心情を関係付けて類推させるようにし，大輝の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には，まず資料の一読後の感想から，代表委員会でなかなか意見が出ない場面での大輝の心の弱さを共感的に追究させる。次に大輝が提案した「あいさつ運動」に意欲的に取り組むことができるようになった大輝が，代表委員会での担当の先生の話で気付いた意義や心構えを多面的に追究させる。その際，その意義や心構えを実際の生活場面に当てはめて考えさせ，大切にすることのよさや難しさを意識させることで，よりよい生き方を目指していく妨げとなる心の弱さやそのことを乗り越えることが，これまでの校風を引き継ぎ，さらに発展させ，よりよい校風をつくっていくことにつながるというよさについて，さらに深く広く追究させるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は，先生や学校の人々への敬愛を深め，学校における自分の自覚しながら友達と協力し合い，よりよい校風をつくっていこうとすることを目指した生き方をする意欲につながるものであると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることにかかわる経験や，実践を阻む心の弱さ，実践を支える見方，考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとおりである。

［表１］ 実践できた経験（総反応数５４）とその時の感情（総反応数４０）

経　験　場　面	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
朝のボランティア活動・美化作業	３０	学校をよりよくしたい	１８
後片付けをしっかりとできた（トイレのスリッパ並べ，用具の整理）	１４	相手へのことを思った	１３
あいさつ	5	自分の役割を果たしたい	4
学校行事の準備（入学式）	4	すっきりしたい	4
代表委員会への参加	1	ほめられたい	1

［表２］ 実践を阻む心の弱さの認識　　（総反応数３９）

心　の　弱　さ	反応数(人)	心　の　弱　さ	反応数(人)
怠惰な感情（めんどうだ）	１５	労苦からの逃避（きつい）	2
外への欲求（遊びたい）	9	無関心（どうでもいい）	1
楽観的な考え（これくらい平気だ）	6	羞恥心（はずかしい）	1
自己中心的な考え（面白ければやってもいい）	5		

［表３］実践を支える見方･考え方・感じ方（意義・心構え）についての認識　　総反応数（１３６）

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対自己	うれしい，すっきりする	２５	対他者	うれしい気持ちになる	２４	対集団・社会	うれしい気持ちで生活	２９
	自分の役割を考える	２２		相手の立場を考える	８		信頼し，協力できる集団	６
	自分が成長することができる	８		信頼関係が深まる	４		伝統が受け継がれる	２
	自分から進んでする	６						
	最後まで粘り強く取り組む	２						

［表１］から「学校をよりよくしたい」「みんなのためを思った」等の感情が多いことがわかる。これまでの学校における体験活動に積極的に参加し，学校の一員として役割を果たしていることを実感した経験のある子どもが多いからだと考える。しかし，自分自身の役割の大切さを感じていながらも，［表２］からわかるように「めんどうだ」，「遊びたい」といった感情から，学校の一員としての役割を果たすことができないことがあることにも気付いていることもわかる。また，［表３］から，集団の中で自分が役割や責任を果たしていくことについては「自分の気持ちがすっきりする」「自分の役割を考える」「成長することができる」「自分から進んでする」などの意義や心構えを感じている子どもが多いことがわかる。さらに，「うれしい気持ちで生活できる（楽しい生活）」という集団や社会とのかかわりの面においても反応が見られることから，自分自身の学校の一員としての役割を果たすことが，集団・社会がよりよくなることにつながるという見方・感じ考え方・感じ方ができてきていることを示している。**さらに集団・社会に関する見方**・感じ考え方・感じ方**を多様に追究させるために，本校における高学年の学校での体験活動との関連を図る必要がある。**

一方，道徳の時間において，本学級の子どもたちは，問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが，互いの考えを比較し，関係付けながら，道徳的価値に対する見方・感じ方・考え方を十分に深め，広げるまでに至っていない。そこで，多様な見方・考え方・感じ方に触れさせる中で，**自分が強く共感した意義や心構えと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究させるような働きかけを具体化していく**必要がある。

(4)　指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては，**先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることにかかわる生き方のよさの実感を深める中で，子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわる意識が，これからの生き方へと連続し，発展していくようにしたい。**

ア　切実な問題意識をもたせるために，これまでの**体験の中で学校の一員として自分の役割を果たすことができた時，できなかった時の気持ちを対比させ**，その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ　大輝の心情や心情の変化に共感させ，ここでの意義・心構えへの見方・感じ方・考え方を十分に深めたり広げたりできるように，消極的な態度で代表委員会に参加していた大輝の心情が大きく変わる要因となった，担当の先生からの話を聞いた場面に焦点化する。その際，**それぞれの考えの根拠を明確させ，比較や，関係付けを行いながら追究できるようにする。また，「なぜ，そのように感じたのか。」「これまでそのように感じたことはなかったか。」と問い返すことで，朝のボランティア活動や代表委員会，５年生から始まった入学式準備，委員会活動等の体験活動における内面と関係付けて類推**させ，実践を支える意義や心構えを追究させる。さらには，**その意義や心構えを実際の生活とのかかわりの中でとらえ直させ，それらを大切にしていくことの難しさやよさを意識させることで，よりよい実践を阻む心の弱さや「学校の一員としての役割を果たすことがよりよい校風を引き継ぎ，さらに発展させることにつながる」などのよさを実感させ，さらに価値にかかわる見方・感じ方・考え方を深め，広げさせたい。**

ウ　この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め，これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために，**大輝の生き方を基に自分の生き方を振り返らせる。その際，自分が学習で強く共感したことや変わってきた気持ちは何か，感じた意義や心構えとこれからの自分の生活とのかかわりなど，自己評価として自分の考えをまとめる場を設定する。**

３　本　時

(1)　ねらい

ア　先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることにかかわる自分自身の生き方を見つめ，自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて，学校の一員としての自覚もって行動しようとする気持ちを高めることができる。

イ　先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら深めたり，広げたりすることができる。

ウ　怠惰な感情や外への欲求などの心の弱さから，学校の一員としての役割を果たすことができないことがあることに気づくとともに，学校の一員としての役割を果たしていくための意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2)　本時の展開に当たって

それぞれの学習問題とかかわる，意義・心構えについて，主体的に追究することができるように，**対話活動では，これまでの自分の体験を基に考えの背景を明確にしながら自分と友だちの考えの比較や関係付けを行い，価値にかかわるに見方・考え方・感じ方を深めたり，広げたりできるようを行う。**また，**自己の生き方について，考えを深めるために，ワークシートを活用することで，価値にかかわる見方等の変容，これからの生活とのかかわりなどを考えさせる。**

(3)　実　際

過程	主　な　学　習　活　動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1　学校の一員としての自分の役割を果たすことができた時やできなかった時の気持ちを発表し，考えていきたい問題に気付く。 附属小学校をよりよくするためには，どんな気持ちや考えが大切だろう。	7	○　切実な問題意識をもたせるために，これまでの生活の中で，学校の一員としての自分の役割を果たすことができた時とできなかった時の気持ちを発表させ，その気持ちの矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2　資料「代表委員会が学校をつくる」を読み，先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることにかかわる生き方について話し合う。 ⑴　大輝の言動や心情，心情の変化について感想をもち，考えていきたい場面を選択する。 ⑵　大輝の心の弱さや，担当の先生の話を聞いて大切な気持ちや考えに気付いた大輝の感動や意義・心構えについて話し合う。 【心の弱さ】 めんどうだな（怠惰な感情） ↓ みんなと遊びたいな（外への欲求） ↓ 重要な仕事ではないだろう（楽観的な考え） 心の葛藤 【あいさつ運動をしている時の大輝の心情】 ・　代表委員になってよかった ・　学校をよりよくしたい ・　学校のために働くのは楽しい 【意　義】気持ちがすっきりする→自分に自信がつく→みんなも喜ぶ→協力し，信頼し合える→みんなで喜び合える→学校生活がよりよくなる→よりよい校風をつくることができる 【心構え】よりよい学校にしたいという気持ちをもつ。学校の一員としての役割を考える。伝統を引き継ぐ。学校に誇りをもつ。自分から進んで行動する。周りの人の気持ちを考える。あきらめずに続ける。など	15	○　資料を感動的に読み取らせるために，録音ＣＤや場面絵を効果的に活用する。 ○　大輝の心の弱さや心情の変化への共感を高めるために資料一読後の感想から，代表員会に消極的な態度で参加している場面に焦点化する。 ㊎「代表委員会でだまっていた大輝は，どんな気持ちだっただろう。」 ○　共感できる大輝の気持ちから自己の経験について想起させる。 ㊎「大輝があいさつ運動を提案することができたのは，担当の先生の話からどんな気持ちや考えに気付いたからだろう。」 ○　あいさつ運動をしいる時の大輝の心情を前の場面と大きく変化させるに至った気持ちや考えを明らかにするために，マグネットシートに考えを書かせ黒板に貼らせる。 ○　マグネットシートに書いた考えを基に話し合わせる。その際，**価値にかかわる見方・感じ方・考え方を深めたり広げたりできるように，自分の考えと友だちの考えを比較して考えさせたり，関係付けて考えさせたりする。また，これまでの自らの体験場面での内面と関係付けて類推させ，自分の考えの根拠を明確にさせることで，自分の生活とのかかわりを意識させる。**
見つける	⑶　大輝の生き方を振り返り，自分と友だちの考えを見比べ，感じたことや考えたことを発表し合う。	13	○　**価値にかかわる意義や弱さ等に対する見方等をさらに深めたり広げたりさせると共に，自己の成長を感じることができるように，話合いで感じた見方・感じ方・考え方を実際の体験場面とのかかわり中でとらえ直させる。**
深める	3　学習したことを振り返り，附属小学校をよりよい学校にするためには，どんな気持ちや考えをもつことが大切か，自分なりの考えをまとめる。 自分のしていることが，学校をよりよくしていくことにつながるんだ。 委員会活動の取組をもっと工夫すれば，これまで以上に学校が楽しくなるだろうな。	8	○　これからの実際の生活の中で，学校の一員として役割を果たしていこうとする気持ち意欲を高めたり，学び取った価値のよさと自分自身の生き方とのかかわりと強く意識させたりする。その際，**ワークシートを活用して学習の中で特に納得したことなどを通して，自分の見方・考え方・感じ方の変容や感じた意義・心構えをこれからの生活にかかわらせていくかなどを考えさせる。**
見通す	4　先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくることについて教師の説話を聞く。	2	○　子どもたちが感じると思われる意義や心構えに関係の深い写真を見せながら説話を行い，子どもたちの課題が連続・発展し，実践化が図られるようにする。